

平成14年度実施事業 詳細評価シート

担当部課	保健福祉部福祉生活課	直通電話	72-3194	事業コード	303050101	課内	16	作成日	平成15年9月22日
		担当者	村谷 栄治	担当課長	鎌田 英暢	担当部長	棚橋 文男		

1 事業のアウトライン

1) 事業名	ふれあい雪かき運動助成事業	開始年度	H7	終了年度	未定
		最近の事業内容見直し年度			
2) 総開発計画での事業体系	施策コード 3030501 高齢者福祉の充実 / 安心して暮らせる環境づくり / 高齢者の安全対策の充実 2010701 快適環境の創造 / 雪の克服と活用	大項目 / 小項目 / 細項目			
3) 個別計画での位置付け	高齢者総合福祉計画(高齢者福祉計画 / 誰もが暮らしやすい魅力あるまちづくりの推進 / 外出や散歩しやすいまちづくり)				

2 事業の内容

1) 事業の目的 何のために	冬期間における一人暮らし高齢者等の安全の確保と地域福祉の向上のために
2) 目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	対象者である地域に居住する高齢者や障がい者が積雪による生活不安を解消し、実施者としての町内会等には日常から地域で支える福祉意識が高まるように
3) 事業の方法 どんな手段を講じるのか	地域活動のモデル事業として町内会や地区社協が、地域に住む一人暮らし高齢者や障がい者などの冬期間の安全確保のために、住宅周辺の除雪を行う「ふれあい雪かき運動」に要する経費を助成する。助成額としては1シーズンに除雪道具維持等に係る経費としての「組織維持費20,000円」と実施に係る連絡調整経費としての「活動費対象1世帯当たり4,000円」で、その他に初年度に限り準備資金として50,000円を助成している。北海道の「地域政策補助金」の一環の「地域活動支援事業」として道費補助を受けている。
4) 14年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	なし
5) 事業の背景・社会状況・他の類似事業など	「ふれあい雪かき運動」は、地域のモデル事業として開始しているが、実施団体数が増加していない状況(H7、H8、H9、H10、H11、H12、H13、H14)冬期間の高齢者等の安全確保の面だけでは他に市直営事業の「除雪サービス事業」もあるが、この事業は地域福祉の向上も重要な要素となっている。
6) 事業の立案や実施などへの市民参	「ふれあい雪かき運動」実施にあっては町内会等地域組織の理解と協力が必要。
7) 評価中間公表への市民意見	地域モデル事業となっている調査、妥当性などの点検が必要と思う。総合評価はCではなくDと思う。総合評価Cは甘過ぎる。事業の市民PR及びボランティア組織の育成、町内会助成のあり方など問題解決策の検討を望む。

3 事業に投入した行政資源

項目	H12	H13	H14	H15 予算	H14 事業費の主な内訳	金額(千円)
1) 直接事業費(千円)	408	534	542	560	ふれあい雪かき運動助成額	542
2) その他の間接経費(千円)						
3) 従事正職員の人件費(千円)	411	415	412			
総事業費(1~3の合計;千円)	819	949	954		H14 主な特定財源の内訳	金額(千円)
総事業費中の一般財源(千円)	615	682	683		道費「地域政策補助金」	271
市民一人当たり一般財源使用額(円)	11	12	12			
事務に従事した正職員のべ人数	0.05人	0.05人	0.05人			

4 事業活動の結果

事業活動の結果を示す指標	H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	
実施団体数(数)	目標値	8	7	7	8	目標値は、当初予算時の団体数とした。
	実績値	6	7	7		
	達成率	75.0%	100.0%	100.0%		
ボランティア参加延人数(人)	目標値	未設定	未設定	未設定	未設定	毎年の積雪状況によって参加状況に変動あるために目標費は未設定
	実績値	290	254	527		
	達成率					
対象1世帯当たりの経費(円)	目標値	6,000	5,727	5,727	7,100	目標値は当初予算額における一世帯当たりの費用(総予算費を予定対象者世帯数で除した数値)とし、実績値は決算額対象世帯数で除した数値とした。
	実績値	5,667	6,209	6,159		
	達成率	94.5%	108.4%	107.5%		

5 事業の成果

事業名：ふれあい雪かき運動助成事業

事業の成果を示す指標		H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	確認方法
対象世帯数(世帯)	目標値	130	110	110	110	目標値は、当初予算時の総対象世帯数とした。	年度実績
	実績値	72	86	88	目標レベル		
	達成率	55.4%	78.2%	80.0%			
	最終目標	年度に					
ボランティア出動延回数(回)	目標値	未設定	未設定	未設定	未設定	目標値は、必要に応じての出動のため、未設定とした。	年度実績
	実績値	20	19	35	目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					
全町内会に対する実施町内会の数(数)	目標値	28	27	27	27	目標値は、年度毎全町内会数1/3とした。	年度実績
	実績値	6	7	7	目標レベル		
	達成率	21.4%	25.9%	25.9%			
	最終目標	年度に					

6 事業の観点別評価

1) 事業活動の状況	[課長評価]	極めて良好	概ね良好	一部問題あり	大きな問題あり
[評価ポイント] 活動結果や活動効率、事業改善等の効果はどうだったか	活動指標は、積雪量などシーズン毎の状況によって変動があり、実施団体も固定化の傾向だが、継続性もあり、利用者からも特に苦情等はないことから、事業の活動としては概ね良好。				
2) 有効性・必要性	[課長評価]	有効かつ必要	有効性に疑問あり	必要性に疑問あり	ともに疑問あり
[評価ポイント] その事業は事業目的の達成に効果があるか、また、市民(対象者)に必要とされているか	日常的に不安のある一人暮らしの高齢者や障がい者には、積雪による不安を解消し、快適な冬期間の生活を送るには有効。また、生涯在宅で暮らすためには地域の方々の支援が不可欠で、地域福祉の推進を図る上では有効な事業の一つで、徐々に増加しているが、町内会役員の高齢化による実施困難な状況や地域福祉の浸透不足により、実施団体が固定化してきており、まだまだ全庁的な広がりになっていない。				
3) 市関与の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] その事業に市が関与する必要があるか、市がどこまで関与するのが適当か	本来は、町内会等実施団体の自主性を尊重すべき運動であるが、この運動を通じて支援の必要な人を地域で支えるという地域福祉の理念を広げるには、市が助成し、運動の促進を図ることに一定の妥当性はある。				
4) 事業内容の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] 目指す成果を挙げるためには今の事業内容が適当か、受益と負担の関係に不公平はないか	冬期間の除雪作業は、誰もが大変な作業であり、なかなか地域でボランティア除雪するだけの余裕がなく、また主たる活動の担い手も高齢化している状況の中で、地域ボランティア活動の一つである「ふれあい雪かき運動」の広がりには、現状の中では難しい面もあるが、今後福祉の主力となる「地域福祉」の理念の広がりためには、一事業として粘り強く継続する必要がある。また、事業自体が利用者から「受益者負担」を検討する事業とは異なり、本来無償ボランティアで実施するべき事業であることから利用者負担の発生はない。				

7 平成14年度事業の総合評価

[評点の意味] A: 極めて良好 B: 良好 C: 可も不可もない D: 問題がある E: 大きな問題がある	[課長評価]	C	[最終評価]	C (前年度)
高齢者や障がい者の冬期間の生活安全確保・地域福祉促進から必要な事業だが、まだまだ全庁的な取組みとはなっていない。		本事業は地域ボランティア活動として、地域福祉の推進を図る上からも必要であり、さらに町内会等への周知、PRが必要である。		

8 今後の方向性・課題

担当課長評価	地域福祉の担い手は、地域に住む市民の支援が中心となるが、全庁的な取組みからは、今後、学生など若い世代のボランティア組織や企業ボランティア組織の育成と活用なども検討する必要がある。 (季節雇用労働者の冬期講習会のカリキュラムに組み入れられない)
最終評価	本事業は有効に活用されるよう、制度の周知・PRに努めるとともに、ボランティアの育成、活用が必要である。

9 平成16年度の方向性

* ; 担当課長 ; 最終評価	事業内容		
	現状維持	一部見直し	大幅見直し
事業規模	拡大方向	*	
	現状維持		
	縮小方向		
	統合		
休・廃止			
上についての説明	実施団体の広がり、交付金事業費の増加に繋がる。		

(付表)
補助・負担金等事業内容整理表

担当部課： 保健福祉部福祉生活課
事業名： ふれあい雪かき運動助成事業

1 補助・負担相手方の概況

補助・負担金名称	ふれあい雪かき運動助成金
支出相手方(名称、代表者、構成員)	花川ニュータウン町内会・花畔中央町内会・緑ヶ原町内会・親船東地区社会福祉協議会・花川睦美町内会 石狩中央町内会・つくし町内会・公団はなます町内会
活動(事業)目的	地域に住む高齢者や障がい者宅の除雪ボランティア活動を実践

2 補助・負担相手方の財政状況等

(単位:千円)

	H12決算		H13決算		H14決算		H15予算		
	全体	補助対象	全体	補助対象	全体	補助対象	全体	補助対象	
歳出決算 (予算)状況	初年度準備資金	0	0	50	50	50	50	0	0
	組織維持費	120	120	140	140	140	140	160	160
	活動費	288	288	344	344	352	352	400	400
	歳出合計	408	408	534	534	542	542	560	560
歳入決算 (予算)状況	ふれあい雪かき運動助成金	408	100.0%	534	100.0%	542	100.0%	560	100.0%
			市の補助負担金への依存度		市の補助負担金への依存度		市の補助負担金への依存度		市の補助負担金への依存度
	歳入合計	408		534		542		560	
補助・負担対象経費の内容	新規取組み団体の除雪備品購入などの準備資金(初年度のみ対象)と1シーズンの組織維持費及び対象世帯に対する活動費								
補助・負担金額の算定方法	1団体 : 1シーズン当たり準備資金50,000円(初年度のみ)、組織維持費20,000円、活動費対象世帯当たり4,000円								

3 補助・負担相手方の活動状況

活動結果を示す指標名	H12実績	H13実績	H14実績	H15目標
実施団体数	6	7	7	8
対象世帯数	72	86	88	100
平成14年度活動(事業)実績	実施団体 : 7団体で対象88世帯			

4 特記事項

冬期間の雪と寒さによる日常生活難を排除し、快適な生活空間を維持・確保するためにモデル事業として、高齢者・障がい者世帯を対象に町内会等を単位とした組織の活動を支援することで、自主的な地域住民の積極的な参加を促し、地域福祉の向上を図るため実施した。